令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位の値	本年度の達成度	本年度	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
292061_桜井市	②学校と地域の課題	青少年の健全育成	コロナ禍の自粛や、少子化による子供会活動の減少の影響もあり、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の中で「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか」に対して、当てはまると答えた割合が低い。	花いっぱい運動や環境整備活動など協働活動を実施している。しかし、体験活動や地域課題への興味関心や行事への参加率などの向上につなげていくことに課題があることがアンケート結果により分かった。	地域との連携を深め、学校支援ボランティアを増やし、積極的に学校で活動していただく。児童生徒と地域の方とが顔見知りになれるようにする。また、学校と地域との熟議を通して児童生徒が参加しやすい、やってみたい行事を企画検討する。学校や地域のホームページ等を利用したり、学校からチラシの配布やお知らせメール等で家庭へ参加を呼びかけたりすることで、周知機会を増やす。	学校と地域が連携することにより、地域との協働が進み、地域の方と過ごしていることを実感する。	「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して、当てはまる・どちらかといえば当てはまると答える割合	55%	65	—	3	・令和6年度の全国学力学習状況調査の質問紙調査では「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目が無くなったので、実績値を測ることはできなかった。 ・各校で本事業に係る取組における地域ボランティアの協力・参加のおかげで、顔見知りになることについては一定の効果が認められる。またボランティアの新規登録者があった。 ・ただし活動内容を充実させ目標を達成できるほどの、ボランティアの人材や、実施回数の確保が課題となった。 ・今後は、学校運営協議会や地域学校協働本部での熟議を通して、児童・生徒と地域の大人が一緒に活動できる機会や場を設定していく。 また、地推員との連携を密にしながら、地域の人材確保につなげていきたい。
292061_桜井市	③学校と家庭の課題	家庭等における学習習慣の定着	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の中で「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して、1時間未満と答えた割合が高い。	教員と地域ボランティアによる放課後の学習支援を実施しているが、児童生徒、学習支援のスタッフの参加人数が少なく、年間を通じての実施回数を確保するのが難しく、学習習慣の確立につながりにくい。	・地域コーディネーターとの連携を強化して、地域人材と学校のニーズとの結びつけをすすめる。 ・自治会や教員志望の大学生等のボランティアの確保を増やし、放課後・長期休業期間における学習支援を充実させる。	学校以外で日常的に学習を行う児童生徒が増える。	「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して、1時間未満と答えた割合	50%	40	51.8	3	・本年度も、授業や放課後等の学習支援については、ボランティア人材の確保という課題の解決が難しく、これまで取り組んできた事業に加えての新しい機会を設けることができなかった。 ・本市は今年度からコミュニティスクールを導入した。地域学校協働活動とのさらなる一体的推進を図り、学校運営協議会での熟議を通して、地域の人脈やアイデアを生かしながらボランティア人材の確保と学習支援の機会を増やせるようにする。